enren 20.45 EMOM

2004年春号

発行:2004.4.20

神奈川県 合唱連盟 機関·情報誌

速報!! 年度総会開催

理事改選 桑原理事長再任



総会討議の模様

今年度(平成16 年度)の、神奈川 県合唱連盟総会が 「かながわ県民セ ンター・ホール」 にて去る4月4日 (日)午後1時半の 定刻を少し過ぎた 頃から開催されま した。

会場には、昨年度入会された新会員の代表者を 含めて218名以上の出席者(委任状85通)があ り、平井事務局長(兼副理事長)の開会宣言・総会 成立の報告がなされ会議が始まり、事務局推薦の 古性武志さん(マルベリー・メールクワイア)が 議長に選出され、事務局の宗行さんが書記に就い てスタートしました。

まず田中登志生・副理事長から15年度の活動 報告が行なわれ、引き続いて北島会計主事から会 計報告、加藤・米倉両監事から監査報告があり何 れも承認されました。

各事業とも会員の皆さんの活発な活動を裏付け るように、一部の育成的な事業を除いて軒並み黒 字収支となりました。これは参加していただいた 皆さん、担当理事、スタッフの努力の賜物です。 ただ、総額で140万円近い黒字を出した事業費 に対して、運営に掛かる費用はついに270万円 を越える赤字となり、繰越金を大幅に「食いつぶ して」しまいました。新年度の活動計画・予算立 てに当たって、会費の値上げという苦渋の提案を 余儀なくされました。

値上げ案・可決!

県連・財政正常化へ第一歩

新年度の活動計画及び予算案についても田中副 理事長、北島主事から提案され、審議に入りまし た。会場からは会費値上げに対する反対意見が噴 出することも懸念されましたが、ここ数年に渡り 運営費と会費の関係について、赤字体質であるこ とを具体的な数字(例えば、一昨年は1万円の会 費で1万4千円以上が、昨年は1万6千円以上が 運営費として掛かって、このままではサービスの 低下どころか、破産するということは明白、とし てきた。)を示して明らかにしてきたことで、あ る程度理解されていたらしく、比較的穏やかな空 気の中で賛成多数により可決成立しました。

これにより今年度から年会費は1万5千円にな り、また同時に決議された各事業への個人参加費 一律300円値上げも合唱祭から実施されます。 但し、中学・高校・ジュニア会員については値上 げ幅を圧縮し1万2千円とし、かつ実施を次年度 からとする県連の次世代育成のコンセプトにのっ とった経過措置がとられました。



受付風景



風格充分の議長 古性さん

主な内容

- 1. 速報 平成16年度総会
- 第6回かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト・合唱講習会《記者潜入レポート》 2. 報告
 - 第27回神奈川県合唱フェスティバル
- 3. 案内 - 第47回合唱祭
 - 吉田顧問指揮活動50周年記念演奏会
- - ホール探訪=ミューザ川崎シンフォニーホール
- 5. コラム・合唱と私=飛永悠佑輝さん
- 6. 読者のページ
- 7. コンサートガイド
- 8. 巻末特集

- 第26回神奈川県ジュニア合唱フェスティバル

第27回全日本お母さんコーラス全国大会

- 第38回メサイア演奏会

会費改定の背景~論説風に~ 編集委員 鈴木章司

今回の会費改定によって、或いは合唱連盟に加 盟していることに魅力を失ってしまうのではない かという懸念が理事会でも発言されてきました。 特に今回は、実際に運営費としての強化に絞って 考えると従来の1万円の会費を2万円に値上げし てこそ効果があるのは自明であるところを、会費 としての値上げ幅を半分に圧縮して、不足する分 を、より鮮明な「受益者負担」として、各事業へ の個人の参加費用を、一律で300円値上げする という方法をとりました。各事業の実行委員会か らは各論としてそれぞれの事業についての値上げ は無し、或いは時期延期、ないしは値上げ幅の圧 縮を求める意見も出されましたが、それぞれの事 情を汲んでいては効果的な運営費の捻出が出来な くなるので全て却下されました。ただし、会員数 の激減が続くジュニア・中学・高校会員について は、体力的に値上げについてこられないところが 多いことや、ジュニア層の育成を願う「県連の姿 勢に矛盾しないように」アドヴァンテージを見る ことになりました。

ここ数年の総会に出席してきた方なら感じてい ただけていると思いますが、神奈川県合唱連盟の 現在の活動指針として大きな柱になっていること のひとつが、ジュニア層の育成と言うことです。 「子どもの数が減っている」と言われ続けていま すが、合唱をする子どもたちの数は、それこそ壊 滅的に激減しています。反対に県連が発足した当 時から合唱を楽しんできた人たちは、殆どが「シ 二ア」部門の年齢に達していて、お陰様で「シニ ア」部会は年々数が多くなっています。ジュニア 部会或いは、中学・高校部会(更に大学部会)は 風前の灯です。世間で話題の「年金問題」ではあ りませんが、シニアの方たちがいなかったら(い なくなったらではないですからね!) 県連の活動 は成り立たなくなりつつあります。今のジュニア 層が大人になる頃、一体合唱は、合唱連盟は活動 できているのでしょうか?

-番の懸念は、音楽としての合唱(この言い方 でいいのかどうか・・・?)が、残っていかない のではないか、と言うことです。今、1万人を軽 く越える人が連盟会員として合唱に携わっていま す。県連に加盟していなくても合唱は出来ますか ら、この何倍もの人が合唱を楽しんでいることで しょう。今楽しんでいる人たちは、子どもから大 人になる過程で、何らかの形で合唱に関わり、育 てられ、癒された経験をお持ちでしょう。ところ が今、義務教育の現場では、受験科目以外の教科 は次々と単位が減らされ(昔は多かった、とも思 いませんが)、教員の採用枠も減っています。音 楽の授業で、合唱をする時間は減り、あまつさえ 合唱をしっかりと教えられる、或いは合唱が好き な先生も減っています。子ども達は合唱の楽しさ に触れる機会をもてないでいると思うのです。

ここに県連は大いに危機感を持っています。ど うすればいいのか?答えはひとつではないような 気がします。いろんなことを、出来ることは何で も、出来るだけ早く、出来るだけたくさん。。。 でも、これは大変体力の要ることです。今、合唱 を楽しんでいる人が、一人一人の力は大きくなく ても、みんなが出来ることを、少しずつ持ち寄っ て最大限の効果を目指してやるにはどうすればい いのか。まだ緒に就いたばかりですが、「地域と 結ぶ合唱プロジェクト」は3年目を迎え、着実に 地域に根付いて静かに浸透しつつあります。立ち 上げの時期から攻めの時期に入り、新たに講師の 数を増やして殺到する希望に少しでも応えていこ うとしています。

もっとほかにできることがあるかもしれない。 ただ、ボランティアで活動していくにせよ、必要 な経費はいかんともしがたいものです。そこで、 県連の財務体質をある程度強固なものにして行こ うと言うのが、今回の会費改定の底流にある目的 なのです。

今、合唱祭が出来ればいい、今コンクールに出 られればいい。。。

いま。ではなくて、ほんの少し先のことを考え て、合唱をする仲間のことを考えて、これから合 唱をする人たちのことを想って。未来の合唱人達 に胸をはって「あとはよろしく!!」と言えるよ うに。神奈川県合唱連盟はそんな活動を目指して います。ご理解をお願いします。

> 予算案など総会の細かな資料は各合唱団に お渡ししていますので、そちらをご覧ください。

退任理事に記念品



総会の最後に前期限りで退任した理事等に、桑 原理事長から記念品が手渡され、2年から数年に わたる労をねぎわれました。また連盟事務所の開 設以来、事務所スタッフとして活躍された宗行さ んも、家庭の事情で退任することになり、挨拶さ れ「楽しい思い出もつらかった思い出もあるけど 、とにかく合唱をしている人はいい人ばかりでし た。」と語りました。長い間ご苦労様でした。

役員改選三役2期目へ続投!!

改選で理事会は若返った?

今年は理事の改選期に当たり各部会ごとに新たに選出された32名が理事会を構成することになりました。(それぞれの理事については次号以降お伝えする予定です。)

三役は留任となり、桑原妙子理事長、田中登志 生副理事長、平井保事務局長兼副理事長が2期目 の任に就きました。また、規約を改正し、事業運 営上必要な場合には各部会において1名までの増 員を認められるようになったため、会員数の減少 で従来の理事数3名を維持できなくなっていたジュニア部会からも志澤、地崎、福田の3名が従来 どおり理事となり、「地域プロジェクト」の中心 メンバーとして活躍してもらえることになりまし た。

そのほか、ここ数年空席のままだった事務局次 長のポストも、従来1名に限定されていたところ を事務局強化のため複数名置けるように、これも 規約を改正し、新たに田中実(川崎混声合唱団) と鈴木章司(洋光台混声合唱団)を据えました。 また、退任した米倉監事の後任には樋口浄子(コール・シャンテ)が加わり、加藤春千代(横浜国 大グリークラブOB合唱団)と二人で幹事を務め ます。

事務所スタッフも、宗行さんの後任に元理事で お母さんコーラス大会の実行委員長、カノンの編 集などもされていた秋田さんが加わりました。

総会の終盤、前列に居並ぶ新理事達の顔ぶれを眺めて、若返ったという印象は持たれましたか?

各論から見えたもの ~聞きしに勝るものはない?~

総会の質疑応答で各事業の予算案に対して素朴な疑問が出るのは好ましいことである。中でも合唱祭の予算案への質問は、県連最大事業への関心の高さを表すともいえるだろう。今回そんな合唱祭のイベントのひとつ「サクソフォンカルテット」演奏への否定的意見に対しては会場の一部分らも賛印の拍手が起こった。実行委員長の応答の中で「普段聴けないであろう音楽に触れる場の提供を狙っている旨」の言葉があった。副理事長も「その世界でも指折りの存在で、なかなか聞けない旨」とフォローしていた。参加希望団体が多く、タイトな時間を削ってまで、まして合唱以外の音楽を鑑賞させる余裕はないのではないか?という疑問はもっともなものだ。実行委員会も最も聴衆の多い時間を、合唱を聴く人に使うか費用の掛かるゲストに使うのか、頭の痛いところだろうし、ここではどちらが正しいのかは決めかねる。

ただ、昨年会場であの音色を聴いている人がどの位いるだろうか?残念ながら客席では聴けなかったが、舞台裏や袖に漏れてくるその音たちは本当にまるで人の声でアンサンブルしているように聴こえ素晴らしかった。是非来年も来て欲しいとそのとき感じた。演奏家としての態度も本当のプロ魂を感じたし、会場の人々を充分以上に楽しませてくれたのではないだろうか?

あんなに素敵な音楽家を呼ばない手はないと思うのだが。 昨年聴きそびれた方は、今年お聴き逃しのないようにすべきである。聴いてから、総会で是非論を論じてもよいのではないかとも思う。

連繋!! ジュニア合唱祭

清水稜平編集員=紅葉坂発

第26回神奈川県ジュニア合唱祭は、4月3日 土曜日13時から神奈川県立音楽堂で開催されま した。

志沢実行委員長に、今年の開催意図を聞きました。

「従前は内部講師でしたが、松下耕先生をお招きし、昨年の委嘱作『ひかり』と、『まどさんの詩によるみっつのうた』より2曲を指揮をしていただき、合同合唱を行います。事前の合同練習も実施し暗譜をしての出演です。

残念なのは、1991年の24団体をピークに参加団体は減少し続け、昨年比2団体減少し14団体297名の出演です。」とのこと。

昨年までの「ほっとタイム」「Sensei's」といった 企画は割愛されて、すっきりとしたプログラムに なっており、全員が、お互いを聴き合い、メッセ ージカードを記入する企画となっていました。

司会は実行委員の坪谷麻貴理事。坪谷さんが自 分の言葉で児童に語りかける姿は初々しく、ジュ 二ア合唱祭に最適だと感じました。

講師お二人のご講評。

松下耕さんは「何の為に歌うか?私達歌いたいの!聴いて!の音楽表現が欲しい。音楽は聴き手と共感しなければ成り立ちません、私もその為に作曲致します。」

松村務さんは「日本は平和です、歌える自分が幸せを感じて下さい。歌う時に顔の上半分を使っているか?内容をもっと理解しよう。親御さんへ、歌い続ける環境を維持してあげて下さい。そしてみんな大人になっても歌い続けてください。」

合同合唱が終わったとき、指揮をした松下耕さんが、顔の上半分も使って生き生きと表現していた、ゆりがおか児童合唱団の児童の髪を、そっと撫でて「ニコッ」と笑って退場されたのが印象的



指導する松下耕

氏

合同合唱(写真=フォト・ワン提供)

第6回 がながわ ヴォーカルアンサンブル コンテスト

開催

3月21日日曜日 神奈川県立音楽堂

神奈川県合唱連盟創立 4 0 周年記念事業としてスタートした「かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト」(通称=アンコン、K v e c)が、第6回目の開催を無事に終わりました。今年も東京・埼玉・茨城などの近隣各県からの参加者を含めた 4 2 団体が、日頃の練習の成果を発揮する緊張の舞台に上がりました。

中高生を主体とする「ジュニア部門」から「男声」「混声」「女声」の各部門ごと(今年は「シニア部門」の応募がありませんでした。)に1次審査が行なわれ、その各部門上位の団体が、2次審査に進出。一次審査とは異なったレパートリーを歌うという独特の厳しいコンテストですが、各団体ともにさすがと言う演奏を繰り広げ、小編成アンサンブルのア・カペラによる演奏レベルの向上を窺わせてくれました。

「絶対評価」法によるこれも独特の審査の結果総合第一位は「小田原少年少女合唱隊」が獲得、第2位には「横浜雙葉学園聖歌隊」、第3位には「ステラマリス」が入賞しました。また、昨年までの客席に来た方の投票で選ばれる「オーディエンス賞」に替わって今年設けられた「審査員特別賞」は「横浜室内合唱団〜海(Kai)〜」が受賞しました。

第27回 神奈川県合唱フェスティバル

開催報告

フェスティバル実行委員 鈴木 行=_{投稿}

平成16年2月15日(日)午後1時より、快晴の空の下、神奈川県立音楽堂にて第27回神奈川県合唱フェスティバルが開催されました。

昨年の「県下合唱連盟大集合」のテーマに引き続き、今年はパート川として神奈川県下の18地区の合唱愛好家団体に呼びかけを行ったところ、14もの地域から参加のお返事を頂き、出演人数783名(内ジュニア260名)が一堂に集いました。

さらにその内の8つの団体はサブテーマである「3世代交流」を絡ませたステージ構成・団構成をして下さり、日ごろ経験の出来ない世代間の交流が出来て、楽しい時間が舞台一杯に広がりました。

プログラムは各団体の代表者によるステージ入場に始まり、オープニング合同合唱「花のまわりで」の大合唱を皮切に、15名の小編成の合唱団から120名の大編成の合唱団まで、実に多種多彩で、演奏曲目も昔懐かしい童謡・小学唱歌から宗教曲まで多岐にわたって、非常に変化に富んだ飽きの来ない素晴らしいステージ構成となりました。

ただ、午前中のリハーサル会場を2ヶ所設けて 効率のよいリハーサルをと目論んでいたにも拘ら ず、説明不足の為、出演者の皆さんをかえって混 乱させてしまった事や、本番に臨むバックステー ジで、人数の多い団体同志が上手にすれ違う事が 出来ず、ステージ進行や団体の移動に手間取るこ とになり、出演者の方々にご迷惑をおかけした事 など沢山の課題も残りました。

演奏会終了後には、出演14団体28名の皆様の参加を頂き代表者会議を開催しました。演奏会の感想や今後の各地域の団体との交流の持ち方など、限られた時間ではありましたが、活発な意見交換が行われました。



会場とともに全員合唱。舞台上模範演奏は「ヨコハマコーラスフェスト実行委員会」の "3世代合同合唱団"の皆さん。指揮は吉田孝古麿さん。

合唱講習会開催!(カノン記書 潜入レポート!)

1月31日(土)にJR本郷台駅近くの「かながわ地球プラザ・プラザホール」で行なわれた合唱講習会に参加してきました。

今年度の講習会は日本語のテキストによる表現 方法を学ぶと言うことに主眼を置いた講習が続い ており、今回も三善晃さんが編曲した「唱歌の四 季」という曲集を使ってのレッスン。

講師の菅野正美先生は、福島県で音楽教諭として各校に勤務し、それぞれの高校で合唱部を指導されて全日本合唱コンクールなどのコンクールで連続金賞受賞などの華々しい活躍をされていらっしゃいます。今回は、いつもと少し趣向を変えてモデル合唱団を使っての公開レッスン方式ではなく、講師である菅野先生が客席のほうを向いて会場の聴講生を指導してうたを作り上げていくと言う形になりました。(新鮮!!)

(つづき)

午前中の「中高生のための~」では、150名近い中・高校生が、「唱歌の四季」の1番「朧月夜」、5番「夕焼け小焼け」のレッスンを受けました。午後からの一般の部は、申し込みの段階であまり応募者がなく関係者をやきもきさせましたが、もともと混声版でのレッスンを予定したもとであることにしたお陰か、午前の部から引き続いるできることにしたお陰か、午前の部から引きがいる近い参加者を得ることができました。午後の部では2~4番「茶摘」「もみじ」「雪」の3曲が歌われました。

午前中は、中高生の体力・吸収力・集中力・順応性、そして何より女声陣のあっけらかんと出す高音域に感心しました。多数の女の子に囲まれた男子!これは一見昨年と同じ景色でしたが、はるかに存在感を示してくれて、伸びやかにまっすぐに歌う彼等の声には感動しました。

始まってすぐに、菅野先生は受講生達にこう聞きました。「『朧月夜』を初めて歌う人は?」。 少なからぬ手が挙がるのをみて「われわれの世代なら知っていて当たり前の曲なのに・・・」と驚かれていました。

こうして波乱含みに始まったレッスンも、歌い始めれば講師も受講生も次第に熱が入り、先生の一言一言に反応してどんどん素晴らしい景色が広がっていくようでした。

レッスンの中で印象に残った言葉を拾ってみると・・・。

「音を当てるところを意識して!」声を出すときの響きの方向を常に意識すること。鼻の前のほうにずっと伸ばして行く感じで。実践として口を「a」の形のまま声を出しっぱなしで「o」「ou」「u」と、唇を尖らせるようにして響きを集めるような練習をしました。

「アルトの人は地声を使っていいよ」「低い声は胸声を使って!」「使える声は何でも使う」。 日頃主役の座に着くことが少ない内声担当声部が 主役につくとき、どうしても控えめな表現になり がちです。しっかりと歌い存分に表現することを 意識しないと、むしろやりすぎるぐらいでちょう どいいときもあるのですね。

「合唱は意識改革だ!」 「遊びを知ることも大切」 「鼻濁音には気をつけて!!」 e t c. . .

午後からは、一般の部。

スタートは方言の話から。福島の方言をお得意の?物まねを交えてお話してくださいました。大雑把に「東北弁」とまとめてしまうところですが先生がとてもお上手に「福島弁」「会津弁」「南部訛り」「津軽訛り」「秋田弁」など、次々と言い分けて聞かせてくださるので、会場は爆笑の連続でした。(ほんとにすごかった!)

「鼻濁音」が消えつつあると言うお話の中で、その大きな原因としてテレビの強い影響を挙げていらっしゃいました。関西の方は鼻濁音が苦手?と言うかできないのでしょうか?確かにテレビで「お笑い芸人」といわれている人たちが、主に関



西から全国に配を多うないがいるというできるとうできるというできるというできるというできるというできるというできるというできません。

関東の人間は 無意識にできて いたはずだが、 テレビの影響を

強く受けている若い人たちは、できなくなっているようで、実際午前中の中高生の部でも「が行」の音が出てくるたびに、ここは鼻濁音を使ってとかなり細かく指導する必要がありました。(午後の部では男声に混ざって歌っていたのですが、高校生達は殆どできていませんでした。相当気をつけていないと、日本から鼻濁音は消えてしまいそうです。)

もうひとつ面白かったのは、午後からのほうが 先生のお話に対する聴講生の反応がすこぶる良か ったこと。次から次へとネタ?! を繰り出して、 会場を和ませてくれる先生の言葉にどんどん乗せ られていきました。

「テンポは前のめりに!これが若さの秘訣!」「いる音といらない音の整理をつけて歌うと、さっぱりします」「コーラスする人は皆若い!顔の筋肉を一杯使うから。」「皆さん、今のは使ってません。」「あと10歳若い声で歌いましょう!」(そういえば午前中は男声陣に「38歳くらいのおじさんになったつもりで大人の声を出そう!」とも)

というわけで、あっという間の一日が過ぎました。

午前・午後それぞれ最後に会場の聴講生からの 質問を受けてくださいました。難しい質問ばかり でしたが、一生懸命に答えていただきました。

「パートの中で硬い声の人がいる。柔らかい声 で揃えたいのだが・・・」

『まず犯人探しですね!(爆)誰が違うのか。 違うのが分かったら、こう違うのだと言うことを 知ってもらうこと。周りからどしどし違うのだと 言うことを言ってあげること。正しくやさしく言 っていけば必ず絶対に変わります!!結果を信じ て強い気持ちで伝えてあげること。』

「ベースを歌っていて、軽い声で出しなさいと 言われるが・・・」

『まずは自分の声を知る、自分で出したい声を 出す。そして、表現する。それから指揮者が求め る声や表現と折り合いをつけていくことだと思い ます』

いつもとちょっと違う、でも最高に楽しい講習会だったのではないかと思います。これかも講習会にはもっとたくさんの方が参加されるといいなぁと思いました。



第38回 クリスマス音楽会

メサイア演奏会のご報告

神奈川県合唱連盟メサイア委員会 委員長 川上久美子



「アーメン、アーメン!」の 大合唱の終曲、神奈川県立音 楽堂での余韻の中、誰も席を 立とうとしませんでした。出 演者も、観客も、人それぞれ に今年一年を締めくくる演奏 に酔い痴れている感じさえし ました。

前日の木枯らし吹く曇天も、12月14日当日は、朝から雲一つない冬日和の穏やかな一日でした。開演3時間前からの行列は街街の歳末風景を忘れ去させるような「日向ぼっこ」の和やかなひと時を思わせました。

今回は神奈川県立音楽堂主催、神奈川県合唱連盟共催として、初めて合唱団員を広く傘下の団体から募集して演奏会に備えました。

多数の参加希望者がありましたが、最終的には 157名の方々にステージに立っていただきました。38回という伝統ある「音楽堂メサイア」には、10回以上いや、38回全回出場と言うベテランから、初参加の方々まで、個々に条件は異なっていてもメサイア全曲に挑戦し、歌えたという喜びと達成感が何ものにも代え難い思い出になったことでしょう。

生き続けている「メサイア」に品格ある繊細な 音楽表現を具現していただいた小泉先生に感謝い たします。



コラム·シリーズ ~合唱とわたし~



指揮者・理事

飛永悠佑輝

私は小さいときから 親の勧めでヴァイオリンを習っていました。 のんびりとやらせても らっていたので、嫌に なることもなく音楽は

自然と生活に一体化していました。

中学のブラスバンド部(これが楽しくてしょ うがなかった)、仲間と共に音楽する喜びを知 った私は、都立新宿高校でオーケストラ部に入 りました。ここは、あの池辺晋一郎氏が所属し ていた(ハーモニーの連載にもよく登場します ね) クラブで、もう一つ言うなら、かの坂本龍 一氏の後輩にも当たる名門(?)です。さて、 オーケストラも楽しかったのですが、そのとき いつも横で楽しそうに練習しているクラブが混 声合唱のクラブだったのです。その和気あいあ いとしたクラブの魅力に負け、二年のときにオ ーケストラ部から移籍をしてしまいました。声 を出すことは初めての経験で不安でしたが、練 習している曲の魅力や可愛い女性たち(?)の 魅力に私は合唱の虜になっていきました。新宿 高校は本当に自由な校風で、生徒の自主性を育 ててくれる素晴らしい学校でした。

そこではすべて自分たちだけ(OBも良く来てくれましたが)で練習を積み、曲を仕上げていきます。指揮者もピアニストも、もちろん学生。私はその両方を高校時代に経験することが出来ました。

その後大学(横浜国立大学)では、またまた合唱に、それも男声合唱団に入ってしまい、こんどは色気抜き(笑)ですが大勢で歌う男声の力強い響きと、時にはこの上もなく繊細な世界にどっぷりと浸かり音楽から抜け出ることは出来なくなりました。

大学時代歌っていた曲は、今でも男声合唱の 重要なレパートリーになっているものが多く、 私が振ったものでは「祈りの虹(新実徳英)」や「青いメッセージ(高嶋みどり)」、「ギルガメシュ叙事詩(青島広志)」など、忘れられないものばかりです。また、高校時代に歌っていたものでは広瀬量平さんの組曲(「生の歌」や「蔵王」など)や、桐朋学園時代にはあり、「我がマイルストーン」)など、いま見ても素敵な作品ばかりで、これらいま見ても素敵な作品ばかりで、これらとさんざん歌い、練習出来たことは本当に私にとって幸せなことでした。

このような合唱の経験から、私は音楽のプロへの道(桐朋学園の指揮科を経て)に進むことになったのですが、今は、皆さんと感動を分かち合えるよう日々努力しています。

今年もいろいろ 合唱祭イベント情報

合唱祭実行委員長 田中 実

第47回神奈川県合唱祭は、いつもの県立音楽堂で、6月12日(土)・13日(日)・26日(土)・27日(日)の4日間開催となります。今年もいろいろなイベントを企画して、皆さんがより楽しめ音楽堂に来て良かったと思える合唱祭を目指しております。

その中から主なイベントを紹介いたします。

アルモ・サクソフォンカルテット 6/13

プロフィール;1982年に結成。1986年第21回民音室内楽コンクールにおいて、サクソフォンとして初めて第1位受賞、同時にルフトハンザ賞も重ねて受賞する。結成以来全国主要都市でのリサイタルの他にワールド・サクソフォン・ゴンザレスへの参加等意欲的に演奏活動をする。現在各々が様々なジャンルを超えて、サクソフォン奏者として全国各地での公演、オーケストラ、吹奏楽、放送等、あらゆる場面で、多彩で意欲的な演奏活動をしている。

Soprano Saxophone 中村 均一 Tenor Saxophone

明

松雪

Alto Saxophone 遠藤 朱実 Baritone Saxophone 栃尾 克樹

昨年、音楽堂いっぱいに響き渡ったサクソフォンの魅惑の調べが、このホールに帰って来ます。6月13日(日)のBブッロクとCブッロクの間、午後4時前後を予定しております。ステージの最後にアヴェ・ヴェルム・コルプスを会場のみなさんと歌いたいと思います。

コスチューム・ファッションショー6/12

合唱祭の初日6月12日(土)の昼休みに、ファッションショーが復活します。ユニチカ提供で最新のコスチュームが舞台を飾ります。現在モデルを募集中です。あなたもスーパーモデルのステージを味わって見ませんか。多数の応募をお待ちしております。

新企画・作曲家コーナー「木下牧子」

6/26

講師にお迎えした木下牧子さんの作品を歌う合唱団を集めたコーナーです。6月26日(土)のBブロックです。木下作品を演奏する合唱団は、どうぞこのコーナーへ。演奏直後のワンポイントアドヴァイスなどを織り込んでの楽しいコーナーにしたいと思います。

公開レッスン=菅野正美先生 6/27

毎年土曜日に行なって来ましたが、今年は最終日6月27日(日)の昼休みに行ないます。 今年は日曜日に行ないますので、一般や女声合唱団の参加をお待ちしております。菅野先生のエネルギッシュなレッスンをお楽しみください。

リージーズ・6/13

今年もリージーズの登場です。「理事ず」読んで字の如く、連盟理事の合唱団です。理事長・副理事長も参加の予定です。指揮者でない団員が指揮をするというコンセプトに基づき、今回は一般理事の鈴木章司の指揮で、源田俊一郎編曲「ふるさとの四季」より数曲を演奏します。どうぞお楽しみに。

その他いろいろなイベントを企画して皆さんの 参加をお待ちしております!!

問い合わせ先 合唱祭実行委員長 田中 実 電話044-333-0614/4720

 $^{\circ}$

第27回

全日本おかあさんコーラス全国大会

(横須賀芸術劇場開館10周年記念事業) のこと

> 主催(社)全日本合唱連盟・朝日新聞社 主管(社)全日本合唱連盟関東支部 神奈川県合唱連盟

全国大会実行委員 田中 実

8月28日(土)29日(日)の2日間に亘り 第27回全日本おかあさんコーラス全国大会が、 横須賀芸術劇場で開催されます。皆さんご存知の キューピー株式会社が大会に協賛しています。

このおかあさんコーラス大会は、2~3年に一度やって来る神奈川県主管の全国大会規模の行事では、最大規模の大会となります。北海道から九州まで全国から参加する合唱団は、1日目が27団体、2日目が31団体の計58団体で、現在県連の総力をあげて出迎えの準備に取り組んでいます。シンボルマークも決まり、大会用の事務所の開設準備も整い、120名程必要なスタッフもほぼ集まって、これからは大会当日の運営の検討に取り掛かるところです。

ところで、この大会のチケットは、全国から参加するおかあさんコーラスの、華やいだ雰囲気と高いレベルの演奏とで、非常に人気が高く、ホールはいつも満員になります。当日券は両日共百枚程度しか販売いたしませんので、入場希望の方は前売り入場券(2,510円)をお求め下さい。なお、発売期間は平成16年7月12日(月)より、先着順となります。問い合わせ先は下記の通りです。

全日本おかあさんコーラス全国大会実行委員会 事務局

電話/045-681-6061 FAX/045-681-6033 (事務局開設7月1日から)

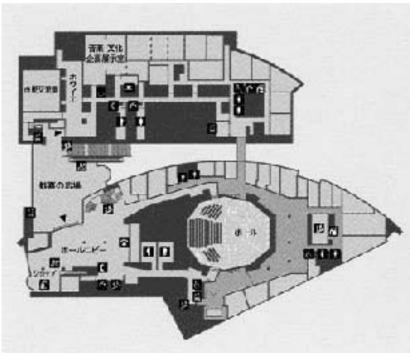
(平日の13時~16時、土・日・祝日は休み)

随時企画

事務局次長 田中

JR川崎駅の西口に「ミューザ川崎シンフォニ ーホール | がほぼ完成し、2月6日東京交響楽団 による試演会が行なわれた。各方面の関係者約3 00名がみまもる中、秋山和慶の指揮で、モーツ アルト交響曲第35番「ハフナー」の第一楽章が 響きわたった。

1997席を持つ同ホールは、市制80周年を 記念して建設され、7月1日に川崎市合唱連盟合 唱団「アニモ」も参加して開催する杮落としの演 奏会、マーラーの交響曲8番「千人の交響曲」で 開館する。パイプオルガンはまだ設置されていな かったが、音響効果の高いワインヤード形式を採 っており、素晴らしい響きが期待できそうだ。客 席はP席(パイプオルガン側)を含めて、舞台の 周りをらせん状に取り囲んでいるため、一階・二 階・三階席の境界がはっきりとはしておらず、一 階席から三階席まではホールの中をらせんに沿っ て移動が出来る。さすがに四階席にはホールを出 ないと行けない。四階席に座ると舞台は非常に下 に見え、かなりの高低差を感じる。高所恐怖症の 私には少し高すぎるが、響きは確実にここまで駆 け上がって来る。川崎市とフランチャィジー契約



ホールと建物の平面図(同ホールのHPから)



舞台を囲むように、客席がブドウの段々畑のように配置されたホー ル形状。客席によるステージとの距離の差を小さく出来るのが利点 で、反射音の広がりも大きい。1963年開館したベルリンのフィルハ -モニ―が最初に採用した。

を結んだ東京交響楽団がこのホールをホームグラ ンドとし、練習から本番までをこのような音響効 果の素晴らしいホールで行なえることは、本質的 な音作りへの道を踏み出す大きな手助けになるに 違いない。

正面入り口手前「歓喜の広場」の左側には30 人程が座れるベンチ式椅子と、7~8mの円形ス テージがあり、ロビーコンサートが出来る。高く 見上げる吹き抜けのガラス張りの天井空間にどん な音が響くのか楽しみだ。

入り口を入ると、広い落ち着いた感じのホール ロビーの正面で、岡本太郎画伯の大きな壁画「空 の散歩」が出迎えてくれる。エスカレーターで二

> 階席のフロアーへ上がり、そこからホ ール二階席に入る。半円形の舞台上に は、重量6t条りの4枚の大きな長方 形の反響板が、調整のため頭のすぐ上 まで降りていた。舞台のセリは26に 分割されており、最深部のセリはP席 の最前列まで上げることが出来、P席 を使う合唱では舞台との一体感が得ら れる。客席の構造に変わったところを 見つけた。ヨーロッパのホールではよ く見られると聞いたが、ホールの写真 を見ても判りにくいが客席をらせん状 に配置したため一階席を除く多くの座 席が、横の並びが緩やかに斜めになっ ている。

次に、付帯設備の見学に向かう。ま ず驚いたのが女性用トイレの多さと広 さと美しさ。

ホール棟には大きなリハーサル室はなく別棟にあるとのこと。しかし舞台のすぐ裏には、いくつかの個室(個室といってもかなり広い)と、2つの楽屋がある。その殆どにピアノが設置されることになっている。10mほどの渡り廊下を通って隣の棟へ向かう。この棟は、150席の多目的ホール(市民交流室)と展示室(音楽・文化展示企画室)に練習室が二つ、それといくつかの会議室があり、ホールと同一のフロアーなので、動線も思っていたほど長く感じられない。全国規模の大会も開催可能と思われる

川崎にこのように素晴らしいホールが生まれた ことを誇りに思い、それをさらに素晴らしいもの に創り上げて行くのは、私達市民の力なのだと実 感した。

以前ご好評を頂いていた「ホール探訪」ですが、県内の施設で取材にいける範囲のものはほぼご紹介が終わっております。これからは新たに出来上たホールや皆様からご推薦をいただいた施設を、その度ごとに(随時)ご紹介していく臨時企画としてお届けしていきます。

久しぶり紙面を飾ってくれたのは、この夏、マサシク鳴り物入りで産声を上げる「ミューザ川崎シンフォニーホール」です。

今年度から県連の事務局次長に就任した田中実理事の視察報告をご投稿いただきました。

指揮者活動 50周年 吉田孝古麿・県連顧問

MMホールで記念コンサート 7/4(日) **『うたがあるから** みんながいるから』

本県連の元理事長、現在は顧問としてご活躍でまた、横浜を中心に神奈川を代表する指揮者の一人として精力的な活動を続けている、吉田孝古麿氏(70歳)が、指揮者活動50年の区切りとして現在指導している県連非加盟団体を含む11の合唱団を一堂に集めた記念演奏会を開きます。

7月4日日曜日の午後2時半からみなとみらいホールの大ホールで行なわれる『パート・1』では、それぞれの合唱団の特徴に合せた氏ならではの編曲もの(学生の頃教科書で口ずさんだ経験もあるでしょう?)を集めた、盛りだくさんの内容です。また女声、混声などの声区による合同演奏も聴きものとなっています。

入場料は全席指定 2, 000円です。チケットのお求め、お問い合わせは、吉田孝古麿さん本人まで。電話 045-253-1346まで。FAXも。

ホームページ http://www.sdnne.co.jp/maro50/ この秋 1 1月には『パート・2』として、氏の 作曲作品を集めた演奏会も予定されています。

読者のページ

コンサートに人生の虹をみた

女声合唱団 ままろば・煌(きょら) 松澤 菊江さん

ベルが鳴り会場のざわめきが止んで、空気のながれる静寂のなかに、ピアノのキーが四季を彩る華やかな音色(ねいろ)となり、吉田孝古麿先生の両手があがり、私たちのコンサートが開幕されました。

コンサートを迎えるために、取組んでいるグループの皆さんの真剣な表情。 なによりも指導する先生の熱意に心を打たれました。同じことを何度も注意される私たちに、時には大きな声をだして奮起させ時には笑いのポーズで和みを与え、そして何回も何回も振る指揮、それに答える何うんの呼吸のピアニスト、そんな合唱団に出逢い目標にむかって語らい歌う楽しさが共感し合える喜びを、あらためて感じました。

ピアノが、もの悲しい表情の音色に変わり、時には躍動する音に誘われるように、ナレーターの星野富広詞集「風の旅」よりの朗読がながれ、女声合唱組曲「風に揺れる花」を歌ったストーリーでは、病床で"生と死"と闘いながら、命の大切さゆえに生きる事への苦しみと、生への執着に、命より大切なものを見つけ出すことで、希望と歓びを知る作者の悲壮なまでの意志の強さに感動し、歌とは人の心の中に、歓びと、生き甲斐、そして豊かさと、安らぎを与える!

歌は人生の架け橋ともいわれます。 指導者総出演(豪華キャスト)によるコンサートでハーモニーを奏でられたこの日は私の人生に虹のかけ橋を見たようなすばらしい日となりました。

フけーレの '花の街' の演奏曲にあわせステージの袖に退場しながら背中に鳴り止まない拍手と歓声を聞き、会場から「素晴らしかったわね」という声の感触を、確実に得たような気がしました。

'美しい日本語を表現する'まほろば・煌(きらら)のコンサートをまた聴きたい、そして聴かせたい合唱団、シニアのグループとして誇れるように努力して行きたいと思います。

巻末特集 第7回世界合唱シンポジウム京都大会へのお誘い・3

来年8月に京都を舞台に繰り広げられる「世界合唱祭」について毎回ゲストコメントを頂いていますが、今回はちょっと寄り道して全日本合唱連盟のHPを覗いてみました。

皆さんは全日本合唱連盟のホームページをご覧になったことがありますか?自宅にパソコンをお持ちでネット環境を整えている方なら、一度はご覧になっていると思います。

ここに行けば日本の合唱のことは何でも分かる。。。 という訳には行きませんが、合唱連盟が行なう様々な事業などの情報や日本中の合唱団、日本各地の合唱連盟が登録している「リンク」と言う道案内をたどって行けばそれぞれの様子を知ることが出来ます(ちなみに神奈川県合唱連盟もホームページを持っていますが、何故かまだ全日本に「リンク」していません。ほんとにユルユルとやっているようです。)

さて、この全日本のホームページで今一番熱いのは、 「世界合唱祭」のページです。何しろ相手は「世界」で すから、日本語だけではなくて、英語でも読むことが出 来るのです。とびらの絵は、東寺のシルエットが美しい 京都の夕焼けを写したもので、とても綺麗です。そこか ら順番に見ていくと、挨拶、内容の説明、スケジュール 関係、参加方法、メルマガ登録(メルマガ=登録すると 電子メールで最新情報などを送ってくれると言う便利な ものです。小泉総理がやってますよね。)、過去の大会 への参加者の感想、そしてここにもありました「寄付の お願い」。やっぱりお金がかかりますからね、世界が相 手だと。神奈川県合唱連盟でも今年から来年の開催期ま での間、全ての事業に参加いただいた方から10円ずつ の募金をいただくことが先日の総会でも決まりましたし 別にいつでもいいんですよ。われと思う方はどうぞ県連 事務所までご連絡いただいて、ご寄付をお願いします。 折角なので内容を少し見ておきましょう。

世界の合唱がやってくる

『世界合唱シンポジウムは、3年に一度、国際合唱連合とホスト国の共催により開催される国際イベントで、世界の合唱団員・指導者が、ワークショップ、コンサートを通して、合唱音楽の芸術性を高め、交流を図ることが目的です。ウィーン(1987年)、ストックホルム/ヘルシンキ/タリン(1990年)、バンクーバー(1993年)

シドニー(1996年)、ロッテルダム(1999年)、ミネアポリス/セント・ポール(2002年)と過去6回、15年にわたる歴史の中で、数多くのコンサートがプログラムに組み入れられるようになり、合唱指導者だけでなく、一般合唱愛好者にとっても意義深い催しになってきました。』

シンポジウムコンサート

『シンポジウムの核となるのが「シンポジウムコンサート」です。このコンサートは、ヨーロッパ、アフリカ北アメリカ、南アメリカ、オセアニア、そしてアジアの各地域を代表する世界トップレベルの招待合唱団によって「世界の合唱が今どのような姿なのか」を示し、「世界合唱の祭典」にふさわしく多彩なものになります。』

オープニングガラコンサートと クロージングガラコンサート

『シンポジウムの幕開けとなるオープニングガラコンサートと未来につながるクロージングガラコンサートはアジアと世界を対比させるようなプログラムにしたいとの構想を持っています。』

世界屈指の指導者によるワークショップ

『世界のトップクラスの合唱指導者や専門家から合唱 に関するさまざまなテーマについてレクチャーや実践型 の指導を受けることができます。世界各地域、各時代の 合唱音楽の紹介・解説、指揮法・発声法などの指導をは じめとして幅広いものになります。主に英語によるレクチャーになりますが国内参加者のために内容によって通訳、日本語による解説、日本語テキストの配布などの方法を検討しています。』

そのほか「音楽展」や、中間日にあたる日曜日には、「全日本ジュニアコーラスフェスティバル」を開催し、世界からやってくる少年少女合唱団の参加によって、国際交流を図るフェスティバルにすることを計画しています。それはまさしく、次の世代への「歌の架け橋」となります。

と言う風に書かれていました。どうです?行ってみたい でしょう?京都。

「国際合唱シンポジウム」まで、あと1年と少しです。 http://www.jcanet.or.jp/wscm/

編集後記

今後は地元で民生・児童委員としてボランティア活動を。県連の行事にも随時お手伝いをさせていただきます。 清水稜平

理事の任期を終えました。大勢の方と出会い、多くの経験をし、学ぶことばかりの4年間でした。1つのイベントを開催するための裏方の大切さ、大変さを痛感しています。6月の合唱祭、8月の全国おかあさん大会が終わったら完全卒業です。お世話になりました全ての皆様方ありがとうございました。

諸先輩が次々と卒業なさるのを見送ることが多くて寂しい今日この頃です。山口さんにはお体の具合を見ながらご助言をいただきたいです。清水さんにはこれからも投稿記事を期待しています。樋口さんは上では「完全卒業!」なんて息巻いてますが、このたび「監事」にご就任で、ますます多忙になりました。皆さんがんばりましょう!。。。と言うわけで。。。

別れの春は出会いの春でもあります。が、カノン編集室は春の雨が骨身にこたえる、隙間だらけの部屋になりました。と思っていたら、新理事のMさんが編集室へ。。。なんか二人なのに部屋が狭いんですけど。。。人間万事塞翁が牛?豚?馬? 鈴木章司